

⑫ 公開特許公報(A) 平1-126922

⑤ Int. Cl.⁴

A 47 G 19/22

識別記号

庁内整理番号

L-7909-3B

⑬ 公開 平成1年(1989)5月19日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑭ 発明の名称 湯呑み

⑯ 特 願 昭62-285019

⑰ 出 願 昭62(1987)11月11日

⑱ 発 明 者 磯 谷 恵 一 静岡県静岡市山崎2丁目35-15

⑲ 出 願 人 磯 谷 恵 一 静岡県静岡市山崎2丁目35-15

明 細 書

1. 発明の名称

湯 呑 み

2. 特許請求の範囲

蓋を有する湯呑みであって、湯呑みは適度な断熱性を有する合成樹脂を用いて成形されており、蓋は湯呑に嵌着して取付けるものであると共に注ぎ口が形成されていて、これを湯呑みに取付けることにより急須の機能を生じる様になっており、且つ注ぎ口にはキャップが取付けられたものであることを特徴とする湯呑み。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は蓋付きの湯呑みに関し、特に蓋に注ぎ口を形成してこれに急須としての機能をもたせ、主として戸外の、例えば列車の車中や野外で使用するようにしたことを特徴とするものである。

(産業上の利用分野)

煎茶、紅茶及びコーヒーは最も日常的な飲料

であって、殆んどの人が毎日数回これを飲んでいる。これらは、茶葉等の飲用材料を湯に浸して材料に含まれる香味成分を湯中に溶出させ、更にその溶液を濾過して飲用するものである点で共通する。従ってこれを飲むためには飲用材料を湯に浸すための道具(例えば急須やティポット)と、溶液を容れるための器(例えば湯呑みやコーヒーカップ)等が必要であるが、上に述べた様にこの飲料が極めて日常的なものであり、しかもこれを飲むことが慣習化されているため、その道具や器も様式化されていて、一定の様式のもので使用されるようになっておりまた、これを飲む場所も主として屋内の一定の場所に限られていた。

(発明が解決しようとする課題)

既に述べた様に煎茶、紅茶及びコーヒーは極めて日常的な飲料であり、殊に、食事をしたり菓子を食べたりするときに飲むに適したものであるから、戸外で飲む要求もまた強いのであるが、これらの場所では飲用道具や器を用意する

ことが出来ないため、要求を満たすことが出来なかった。この様なことから従来は、飲物を予め作っておかざるを得なかった。しかしながらこれらの飲物は、れたてのものには特有の味や香があるが、時間の経過と共にそれらが失われ、しかも苦みや渋味が増すので、結局、淹れたてのものとは全く異なった不味いものを飲まざるを得なかった。

もっとも従来は、湯呑みの中に茶葉しを一体的に形成して、湯呑みに急須の機能をもたせたものが試みられた。このものは湯呑みの中に直接茶葉を入れて香味成分を溶出させ、茶葉を識別しながら茶を飲もうとするものであるがこの湯呑みは構造上量産性が無いことと、先に述べた様に煎茶や紅茶等は飲み方も様式化されているため、到底使用することが出来なかったのである。

(問題点を解決するための手段)

本発明は上記した点に鑑みてなされたものであって、煎茶や紅茶、その他の飲物を飲むため

様のものであり、発泡スチロール等の適度な断熱性を有する合成樹脂を用いて形成されていて使い捨てすることができるようになっている。蓋2とキャップ3は湯呑み1を密閉してこれを戸外で使用することが出来るようにしたものであり、殊に蓋2には注ぎ口4が形成されていてこれを湯呑み1に取付けると、湯呑み1が急須やティーポット等として機能するようになっており、一方キャップ3は小形の湯呑みとして利用することが出来るように器状に形成されている。更に詳しく説明すると蓋2は下面の周縁に湯呑み1の上縁部の内径とほぼ同一の外径の環状のエプロン5が形成され、更にこれに螺旋状の突条6が突設されている。これらは湯呑み1が発泡スチロール等の適度な断熱性を有する合成樹脂を用いて成形されている点を利用して蓋2を湯呑み1に嵌着するものである。即ち、エプロン5を湯呑み1に嵌めて軽く押えながらこれを回転させると、突条6が湯呑み1の内周面に喰い込んで両者が螺合した状態になるのであ

る。湯呑みに蓋を嵌着して取付けると共にこの蓋に注ぎ口を形成して急須の機能をもたせ、更に注ぎ口にはキャップを嵌めて、このキャップを小形の湯呑みとして利用する様にして、主として戸外で茶などを飲んで飲むことが出来るようにしたものである。

(作用)

本発明に係る湯呑みは、これ自体が通常の湯呑みとして煎茶や紅茶、コーヒーその他の飲物を飲むことが出来るほか、これに蓋を取付けることにより、急須やティーポット、コーヒーポットとして使用することが出来る。尚、このときは注ぎ口のキャップを湯呑みとして利用することができる。

(実施例)

以下、本発明を図示の実施例に基づいて具体的に説明する。

図中符号1は湯呑み、2は蓋、3はキャップである。湯呑み1は煎茶や紅茶、或いはジュース等の飲物を飲むための通常のこの種の器と同

る。従って蓋2は湯呑み1よりも硬い材料を用いて形成し、突条6は断面形状をクサビ状にして湯呑み1の内周面に喰い込み易くするのが望ましい。注ぎ口4は形状や大きさについては特に限定はしないが、これに取付けるキャップ3を小形の湯呑みとして利用するところから40～50mm程度とし、高さは5～10mmとしてキャップ3を取付け易くするのが望ましい。尚、図では注ぎ口4には注ぎ出し側に多孔板7を形成し、他の部分をあけた一例を示した。これは湯呑み1から蓋2を取外することなく湯呑み1に茶葉等の飲用材料を入れることが出来るようにすると共に多孔板7を茶葉しとして機能させるようにしたものである。また、注ぎ口4内に形成された突条8と受板9はスティックの先端に取付けられた通水性の袋(ティーバッグ)に充填された飲用材料(特願昭62-16648号)を使用する場合にスティックを支持するためのものである。

蓋2にはまた、係止鉤10と係止突起11が一体

的に形成されていて、係止鉤10には吊下紐を取付けて湯呑みを吊下げて運ぶことができるようになっていると共に突起11には飲用材料を充填した袋を取付けるようになっている。

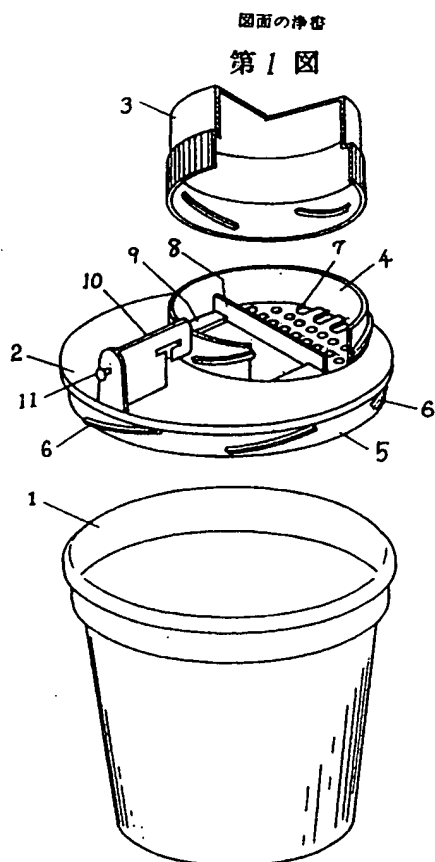
(効果)

以上詳述した様に本発明は注ぎ口を有する蓋と、その注ぎ口に取付けるキャップとを有する湯呑みであって、湯呑みはこれ自身が通常の飲用器として使用することが出来るほか、蓋に注ぎ口が形成されていることにより、これを取付けることによって急須やティーポット或いはコーヒーポットとしての機能が生じるのでこれらの飲物を れて飲むことができる。しかも湯呑みに対して蓋とキャップを取付けて携行することができるので、列車の車中等で使用することが可能となったのである。

4. 図面の簡単な説明

図は本発明の一実施例を示す一部切欠分解斜視図である。

1…湯呑み 2…蓋



3…キャップ 4…注ぎ口
5…エプロン 6…突条
7…多孔板 8…突条
9…受板 10…係止鉤
11…係止突起

特許出願人 磯谷 恵一

手続補正書 (方式)

昭和63年3月4日

特許庁長官 殿

1. 事件の表示 昭和62年特許願第285019号
2. 発明の名称 湯呑み
3. 補正をする者
事件との関係 特許出願人
住 所 静岡市山崎2丁目35の15
氏 名 磯谷 恵一
4. 補正命令の日付 昭和63年2月23日
5. 補正の対象 図面
6. 補正の内容 別紙の通り図面に「第1図」を加入する。

図

3. 3. 7
昭和63年3月4日
特許

PAT-NO: JP401126922A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 01126922 A
TITLE: TEACUP
PUBN-DATE: May 19, 1989

INVENTOR-INFORMATION:
NAME
ISOTANI, KEIICHI

ASSIGNEE-INFORMATION:
NAME COUNTRY
ISOTANI KEIICHI N/A

APPL-NO: JP62285019
APPL-DATE: November 11, 1987

INT-CL (IPC): A47G019/22

ABSTRACT:

PURPOSE: To make it possible to prepare and drink tea outdoors, by fitting and attaching a lid to a teacup for drinking green tea, black tea or other drink, and forming a pouring port to the lid to provide the function of a teapot and fitting a cap to the pouring port to utilize the cap as a small teacup.

CONSTITUTION: An annular apron 5 having an outer diameter almost same to the inner diameter of the upper edge part of a teacup is formed to the peripheral edge of the under surface of a lid 2 and, further, spiral ridges 6 are provided to the apron 5. The lid 2 is fitted to the teacup 1 by utilizing such a point

that the teacup is molded by using a synthetic resin having proper heat insulating properties such as foamed styrol. That is, when the apron 5 is fitted in the teacup 1 to be rotated while lightly pressed, the ridges 6 are bitten in the inner peripheral surface of the teacup 1 and both of the ridges and the teacup become a threaded state. Therefore, the lid 2 is formed by using a material harder than that of the teacup 1 and the ridges 6 are formed into a wedge shape in its cross-sectional shape to be made easy to be bitten in the inner peripheral surface of the teacup 1.

COPYRIGHT: (C)1989,JPO